

## 令和6年度 国語科「古典探究」シラバス

単位数	3単位	学科・学年・学級	普通科 3年 A組～ E組
教科書	新編古典探究（東京書籍）	副教材等	常用国語便覧（浜島書店） 国語便覧確認ノート（浜島書店）

### 1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

（２）論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

（３）言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

### 2 学習の計画

月	育成する資質能力	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価材料
4 5	作り物語を叙述に即して読み、当時の人々の思いを捉えている。 故事成語の概念と価値を理解している。	作り物語を読む  故事と小話	基礎文法の復習 富士の山（竹取物語） 蛇足（戦国策）  中間考査	「言語文化」で学習した既習知識を確認する。 作品の伝奇的特質を理解しながら「富士山」の由来を確認し、物語に表れる人々の思いを考える。 故事の読み取りから現代にも残る意味を確認し、様々な故事成語について調べて発表する。	小テスト 行動観察 ワークシート分析 定期考査
6 7	歌物語における和歌の役割を理解し、詠み込まれる心情を理解している。 登場人物の行動や出来事を的確に読み取り、心情を捉えている。	歌物語を楽しむ  史記を読む	東下り（伊勢物語） 四面楚歌（史記）  期末考査	東下りをするに至った経緯を理解して心情を考え、和歌に込められた思いを考察して話し合う。 史記の全体像を意識しながら場面を読み取り、そこに表れている登場人物の思いを考える。	小テスト 行動観察 ワークシート分析 定期考査
9 10	時代を超えた随筆の価値を捉え、自己の考えを深めている。 先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自己の考えを広げている。	随筆を読む  唐詩と文 - 文	ゆく河の流れ（方丈記） 雑説（昌黎先生集）  中間考査	対句構造に着眼して文章を味わうとともに無常観の思想を捉え、作品の意義を様々な視点で考える。 「伯樂」と「千里馬」の比喻によりどのような主張がなされているのか理解し、身近な生活に通ずる点を考える。	小テスト 行動観察 ワークシート分析 定期考査
11 12	日記と日記文学の違いを理解し作品の目指したことを捉えている。 中国の思想を比較分析し、普遍的なテーマとして自己の考えを広げている。	日記を読む  唐詩と文 - 文  中国の思想	馬のはなむけ（土佐日記） 桃花源記（陶淵明集） 小国寡民（老子）  期末考査	作品の表現等に着眼しながら読み解き、文学史的価値を理解する。 陶潜の考えを読み解いたうえで、老子の説く理想郷と比較し、現代に通ずる問題として考える。	小テスト 行動観察 ワークシート分析 定期考査

月	育成する資質能力	単元名	学習項目	学 習 内 容 や 学 習 活 動	評価材料
1	随筆に込められた作者のものの見方、感じ方に理解を深めている。漢詩に描かれている情景や心情を読み取り、表現に親しんでいる。	随筆を味わう 唐詩と文 - 唐詩	雪のいと高う降りたるを (枕草子) 唐詩 期末考査	作者の行動が中宮の心になかった理由を考え、女房たちの作者への評価を読み取る。 漢詩の形式と規則を学習し、詩家の背景を理解したうえで、情景や表現を味わう。	小テスト 行動観察 ワークシート分析 定期考査

### 3 評価の観点

知識・技能	<p><b>【言葉の特徴や使い方に関する事項】</b></p> <p>ア 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。</p> <p>イ 古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めること。</p> <p>ウ 古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。</p> <p>エ 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めること。</p> <p><b>【我が国の言語文化に関する事項】</b></p> <p>ア 古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めること。</p> <p>イ 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めること。</p> <p>ウ 時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めること。</p> <p>エ 先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。</p>
思考・判断・表現	<p><b>【読む能力】</b></p> <p>ア 文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えること。</p> <p>イ 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えること。</p> <p>ウ 必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること。</p> <p>エ 作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。</p> <p>オ 古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすること。</p> <p>カ 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。</p> <p>キ 関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。</p> <p>ク 古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすること。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。</p> <p>(2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。</p>

#### 4 評価の方法

提出物の評価（授業で使ったプリントやワークシート・授業ノートなど）と定期考査（年間5回）の成績、小テストおよび学習活動への参加の姿勢や態度等を総合して評価する。

#### 5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

- ・受け身にならず、自分なりの視点・問題意識を持つよう心がけましょう。
- ・人の意見を聞くとともに、自らも積極的に発言しましょう。
- ・授業の予習・復習を心がけましょう。
- ・辞書を活用し、語彙力を身につけましょう。
- ・授業中感じた疑問点などはそのままにせず、積極的に質問しましょう。
- ・日ごろから自主的に読書に励みましょう。
- ・予定は変更することがあります。担当の指示をよく聞いてください。